

## 理系女性の キャリア インタビュ



### 自分が目指す理想の姿に近づける、 成長のチャンスが大きい職場環境

世界有数の金融グループであるUBS。そのUBSグループで、日本における投資銀行・証券業務などを担っているのがUBS証券です。今回の「理系女性のキャリアインタビュー」に登場いただく奈良さんは、UBS証券の株式本部 株式調査部でリサーチ業務を担当しています。金融ビジネスの最前線で活躍する彼女の就職活動やキャリア観について聞きました。

**大学では建築・土木を専攻されていたと伺ったのですが、就職先として金融業界を選択したきっかけはなんですか**

建築・土木を就職の選択肢として考えることはほとんどありませんでした。建造物が持つ社会の中で大きな存在感に惹かれつつも、キャリアを考える上で優先したのは「将来の選択肢を広げたい」という想い。特定の専門性を深めるゼネコンやメーカーよりも、横断的な視点を持ち、汎用性の高いスキルを身に付けられる仕事に興味があり、金融やコンサルを中心にっていました。

中でも強い関心を持ったのは、経済に大きな影響を及ぼす投資銀行業務でした。しかしながらUBSで内定をいただいたのは、株式リサーチ部門でのアナリストのポジション。他社の投資銀行部門から内定が出ていたので非常に迷いましたが、トップアナリストを多数擁するUBSのリサーチの強さにも大きな魅力を感じました。最終的には、

「どのような分野でも、主要な地位を占めるトップグループに好機や情報が集中することが多い。トップレベルのリサーチ部門で働くことで得られる経験や成長のチャンスは、何物にも代え難いはず」と考え、UBSへの入社を決めました。

**リサーチ部門での仕事に携わってみて感想はいかがですか**

実際にリサーチの仕事をしてみると本当に興味深く、意義のある仕事だと実感しています。リサーチのミッションは、企業のファンダメンタルや業界動向などを分析して適正な株価などを導き出し、投資家に対して判断材料を提供すること。業界や企業についての膨大な知識が求められるので、キヤッチアップが大変ではありますが、やりがい十分です。私の場合は入社2カ月目に、顧客に配信するリサーチレポートのための企業分析やドラフト作成など、早くから責任の大きな仕事を任せられました。プレッシャーは相当なものでしたが、レポートをリリースしたその日に株価が動いたときには、マーケットの反応を即座に感じられるという金融ならではの面白さを感じました。また、上司が仕事を任せてくれながらも、しっかりとフォローしてくれるなど恵まれた環境にいると感じています。

今後の目標は、シニアアナリストを目指すことです。認知度の高いアナリストは全体の2割ほど。

中でもトップクラスのアナリストは、投資家ならびに大手企業の経営陣から厚い信頼を得ており、マーケットに与える影響も少なくありません。私も、顧客である投資家の方々および企業やマーケットに大きく貢献できる存在を目指したいですね。

### 女性が働く環境としてはいかがでしょうか

正直なところ、会社を選ぶ際に「女性にとってどうか」という視点はほとんど気にしませんでした。私は「環境がどうであれ、どこに行っても自分がベストを尽くすのみ」と考えていたので、それよりも「自分のやりたいことを実現できる会社はどこか」ということを最優先に企業を選択しました。

とはいえ、結果論ですがUBSは女性にとって働き続けやすい風土や各種制度が整っていると感じています。外資系企業で国籍や性別など多様性のある職場ということもあり、当然ですが女性だからといって不利になるようなことはありません。結果を出せば正当に評価されるフラットな環境もあります。

女性の働き方については言えば、結婚しても働き続けている女性が多いですし、出産後すぐに復帰している方もいます。バックアップ体制が充実していて、産休・育休を取得する社員だけでなく、その上司も対象とした「マタニティ・コーチング・

プログラム」や、子どもを持つ社員同士が気軽に交流できる「コミュニティ・親コネクト」などがあり、外資系企業としては日本で初めて「くるみんマーク（子育てサポート認定事業主マーク/厚生労働省発行）」も取得しています。周囲のワーキングマザーを見ても、復帰の時期やワークスタイルなどについて本人の意思が尊重されていると感じますし、子どもを持つ社員が働きやすい環境が整っているのではないのでしょうか。

### 最後に理系女子に向けたメッセージをお願いします

結婚・出産などによりライフステージが変わるまでは男女の差は見られないので、女性こそ、若手のうちにどんどん仕事を任せられ成長できる環境を選択するべきだと思います。

また女性の中には制度にこだわる方も多いかもしれませんが、それを優先して本当にやりたいことが見えなくなるのももったいないと思います。長期的な視点で、本当に自分のやりたいことを実現するための場として就職先を探してほしいですね。私も自分が将来実現したいことは何かを一番に考え、それに最も近づける場としてUBSを選びました。とはいえ、実現したいことを見つめること自体が、簡単ではないのかもしれませんが。アドバイスを贈るなら、早いうちから社会を広く見た方がいいと思います。広くアンテナを張っておけば、

こんな仕事が見たい、この人のようになりたいと思えることがきつとあるはずですよ。そうすると、行くべき会社はおのずと見えてくるのではないのでしょうか。



#### PROFILE

UBS証券株式会社  
株式会社本部 株式調査部  
奈良 悠子 (なら・ゆうこ)

東京大学大学院 工学系研究科で社会基盤学を専攻し、海外インフラを研究対象とする国際プロジェクト研究室に所属。研究テーマは「インドの下水道事業における民間参画の成功要因」。アジア開発銀行に5カ月間、現地に2週間滞在し、現地調査やインタビューをもとに論文を作成。2012年よりUBS証券株式会社、株式調査部に新卒入社。